

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2658 号	氏 名	小林 裕介
論文審査担当者	主査	小口 勝司	教授
	副査	佐々木 康綱	教授
	副査	瀧本 雅文	教授
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>Glioblastoma (GBM) は極めて予後不良な悪性脳腫瘍であり、手術後、放射線と化学療法を組み合わせた治療を行うが治療抵抗性を有するため完治は困難である。本論文は癌幹細胞 (CSC) およびアポトーシス阻害因子である Survivin が GBM 治療ターゲットになると推測し、それを検証したものである。検討の結果、Grade II と Survivin 発現率に有意な相関関係が認められたことから、増殖能が低い Grade II は、細胞周期に対する応答が遅いために抗癌剤感受性が低くアポトーシス抵抗性を得ることが明らかとなった。また、CSC は Grade II から IV の脳腫瘍において治療ターゲットになる可能性が明らかとなった。以上より、本論文において悪性脳腫瘍では CSC が、そして低悪性度では Survivin が治療ターゲットになる可能性が明らかとなった。この結論は新しい知見であり、学術上価値のあるものと判断した。</p> <p>論文題名 : Relationship of Grade of Malignant Brain Tumor to Cancer Stem Cells and Survivin Expression (悪性脳腫瘍の Grade と癌幹細胞・Survivin 発現の関係)</p> <p>掲載雑誌名 : The Showa University Journal of Medical Sciences Vol.25 No.4</p> <p>(2013年12月掲載)</p>			